

[成果情報名]センリョウ新品種の育成

[要約]センリョウの赤色実系統「紅珠」（仮称）は、収量、品質に優れ、上位等級品を多く産する系統である。市場評価では「実付き」、「全体的なボリューム」に優れ、商品性が認められる。黄色実系統「黄珠」（仮称）は、収量、品質に優れる多収系統である。市場評価として、「全体的なボリューム」、「葉形の色や形」に優れ、商品性が認められる。

[キーワード]センリョウ、育種

[代表連絡先]電話 0299-92-3637

[研究所名]茨城県農業総合センター鹿島地帯特産指導所

[背景・ねらい]

茨城県神栖市のセンリョウは、平成 23 年度の東京都中央卸売市場の取扱数量で約 60%を占める、茨城を代表する特産花きである。センリョウは世代交代に長期間を要すること、収量・品質の年次変動が大きく品質の評価が困難であることなどから、民間や公的機関での育種例が極めて少ない。しかしながら全国一の生産県の位置を確保し、有利販売を進めていく上では、収量・品質に優れる県オリジナル品種を育成する必要があることから、新品種の育成に取り組んだ。

[成果の内容・特徴]

1. 試験は昭和 60 年から開始し、平成 21 年度に赤色実 1 系統、黄色実 1 系統の計 2 系統を選抜し完了した。
2. 茨城県神栖市波崎地区の農家圃場において、自然交配により偶発的に発生した優良な実生株を 73 系統収集し、育種母本とした。
3. 後代の作出により、平成 21 年度までに 6 次選抜を行い、形質の安定性を確認するとともに、形質を固定した。

【紅珠の品種特性】

1. 「紅珠」は結果枝が長く、枝あたりの房数が多いことから、上位等級品を多く産する系統である（表 1）。
2. 収穫調査では、積算可販枝数が多く、房数が多い（表 1）。これは、過去 4 ケ年の結果とも合致することから、収量・品質性は気象条件や隔年結果性等による年次変動ではなく品種としての特性である。
3. 市場評価は、「実付き」、「全体的なボリューム」、および総合評価である「商品性」で、在来より優れる（表 2）。生育が旺盛で葉や枝が大振りになるため、「実と葉のバランス」にやや劣る。

【黄珠の品種特性】

1. 収穫調査では、積算可販枝数、および次年度以降の収量の目安となるシュート数と地際芽数が多い多収の品種である（表 1）。これは、過去 4 ケ年の結果とも合致することから、収量・品質性は気象条件や隔年結果性等による年次変動ではなく品種としての特性である。
2. 市場評価は、総合評価である「商品性」で在来より優れる（表 2）。特に高級花材を多く扱う市場での評価が高い（データ略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 両品種は平成 24 年 7 月 19 日に出願公表された（「紅珠」：品種登録出願番号第 26808 号、「黄珠」：品種登録出願番号第 26809 号）。

[具体的データ]



図 1 「紅珠」の外観



図 2 「黄珠」の外観

表 1 「紅珠」、「黄珠」の収穫調査（現地）

品種名	H18～21 年 積算可販枝 数(本/株)	可販 枝長 (cm)	房数 (房/枝)	シュート数 ^z (本/株)	地際 芽数 (本/株)	地際芽 +シュート数 (本/株)	果皮色 ^y	熟期 ^x
紅珠	9.7	91.0	6.1	1.3	1.3	2.6	7Y0706 鮮橙赤	中
在来赤実	7.2	86.0	5.0	1.6	1.0	2.6	7Y0706 鮮橙赤	中
黄珠	8.0	89.8	5.3	1.7	3.9	5.6	6YR1605 鮮橙	中
在来黄実	5.8	87.3	4.7	1.5	2.5	4.0	6YR1605 鮮橙	中

^z 次年度の収穫が見込まれる充実したシュート。表 2 も同じ。

^y 日本園芸植物標準色票により着色完了時に調査。表 2 も同じ。

^x 着色完了時期で分類し早:11 月上旬以前、中:11 月中旬、晩:11 月中旬～12 月上旬。表 2 も同じ。

表 2 「紅珠」、「黄珠」の市場評価^z

品種名	商品性	実付き	全体的な ボリューム	実と葉の バランス	葉茎の 色・形
紅珠	3.2	3.4	3.8	2.8	3.2
黄珠	3.8	3.0	3.4	3.0	3.4

^z 評価者は市場 2 社と仲卸会社 3 社の計 5 社で、平均値を記載。採点は在来の基準点を 3 とし、右記の配点によりアンケートを実施。（0：非常に悪い、1：悪い、2：やや悪い、3：普通（基準）、4：やや良い、5：良い、6：非常に良い）。

[その他]

課題名：センリョウの有望品種の選抜と育苗等栽培技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2000-2009

研究担当者：村崎聡、大津豊、渡辺正幸、石川賢二